

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

大阪狭山市教育委員会



1.調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2.対象学年

小学校第6学年 実施校数－児童数 7校 543人
中学校第3学年 実施校数－生徒数 3校 413人

3.調査内容

- (1) 教科に関する調査
・小学校【国語、算数】
・中学校【国語、数学、英語（CBT）】
※理科（中学校）は3年に一度程度の実施のため実施せず
- (2) 質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）
原則全ての児童生徒を対象にオンライン方式により実施

4.実施日 令和8年4月23日（木）

5.調査結果の取扱いについて

本調査は、競争を目的とするものではなく、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、これまでの教育活動の結果と課題を検証し、その改善を図ることをめざします。本調査により測定できるのは、学力の一部であり、教育活動の一側面を示すものです。また、生活習慣や学校環境についての調査も含まれており、地域・家庭との一層の連携を深めることをめざします。

教科に関する調査結果

【小学校】

○国語

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		大阪狭山市	大阪府	全国
全体		61	59	60.9
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	66.3	64.4	66.8
	(2) 情報の扱いに関する事項	53.4	51.4	52.3
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	今年度は出題なし		
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	65.4	63.9	65.8
	B 書くこと	44.1	43.8	45.7
	C 読むこと	68.0	65.3	65.9

昨年度課題であった「読むこと(全国比-0.9pt)」で全国平均を上回る改善(全国比+3.0ptの伸長)が見られた。全体平均でも全国平均を超え、自身の体験と結び付けて表現する高い記述力が今年度の成果である。一方、漢字等の言葉の特徴や使い方に課題が見られた。言葉の構成要素や意味に着目させ、概念として定着させる取組みが必要である。

【中学校】

○国語

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		大阪狭山市	大阪府	全国
全体		62	61	63.9
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	61.8	60.4	63.0
	(2) 情報の扱いに関する事項	67.3	66.8	70.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	今年度は出題なし		
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	61.2	60.2	63.9
	B 書くこと	65.9	64.5	67.4
	C 読むこと	57.1	56.8	59.7

昨年度課題であった「漢字の文脈理解(全国比-3.3pt)」は、全国比+3.5ptと大幅に改善した。また、品詞理解で正答率73.1% (全国比+2.9pt)と成果を出した問題がある。一方、話し合いを踏まえた立場に応じた立論に課題(全国比-5.2pt)を残す。話し合いの意図を踏まえて論理的に考えをまとめる取組みが必要である。

○数学

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		大阪狭山市	大阪府	全国
全体		55	55	57.0
学習指導要領の領域	A 数と式	65.0	65.6	67.8
	B 図形	49.5	48.0	48.7
	C 関数	50.4	52.8	54.8
	D データの活用	50.3	49.7	53.5
評価の観点	知識・技能	60.9	60.9	63.0
	思考・判断・表現	36.1	36.6	39.1

図形領域の平均正答率が全国平均を上回る結果となった。特に、図形の証明問題の正答率が全国比+4.5ptと昨年度を上回る成果が出ている。一方、文字式を用いた説明では、全国比-8.3ptと説明・表現する力には課題が残った。数学的な根拠をもとに表現・説明する力を育成する取組みを引き続き行っていく必要がある。

○算数

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		大阪狭山市	大阪府	全国
全体		58	56	56.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	62.4	61.1	61.1
	B 図形	56.4	54.2	55.3
	C 測定	81.2	77.6	78.1
	C 変化と関係	42.3	40.6	41.1
	D データの活用	50.3	48.0	48.6
評価の観点	知識・技能	61.0	59.8	60.1
	思考・判断・表現	47.2	44.9	45.4
問題形式	選択式	57.1	55.8	56.0
	短答式	60.1	59.1	59.7
	記述式	51.3	48.1	48.5

昨年度課題であった「記述式問題(全国比-3.6pt)」の正答率が顕著に向上し、全国平均を超える大幅な改善(全国比+6.4ptの伸長)を示した。「測定」や「数と計算」など基礎技能の定着も今年度の成果である。一方、基準値との関係性や数量的な感覚の定着に課題がある。数直線や図で数量関係を整理し、概念の本質を理解する取組みが必要である。

○英語（CBT）

全日程共通の公開問題における		IRTスコア	
		市	府
	平均正答数	500	498
大阪狭山市	3.6問/7問		
大阪府	3.7問/7問		
全国	3.7問/7問	499	

IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、全国平均を基準とした得点で表したものです。

IRTスコアは、全国平均および大阪府平均を上回る結果となった。特に、リスニングでは正答率84.4% (全国比+5.9pt)、条件付英作文48.9% (全国比+4.9pt)と高い成果を示した問題がある。一方で、物語の感情変化を捉える読解力は全国比-6.2ptと課題がある。文章全体の文脈を捉える言語活動を強化し、読解力の底上げを図る取組みが必要である。

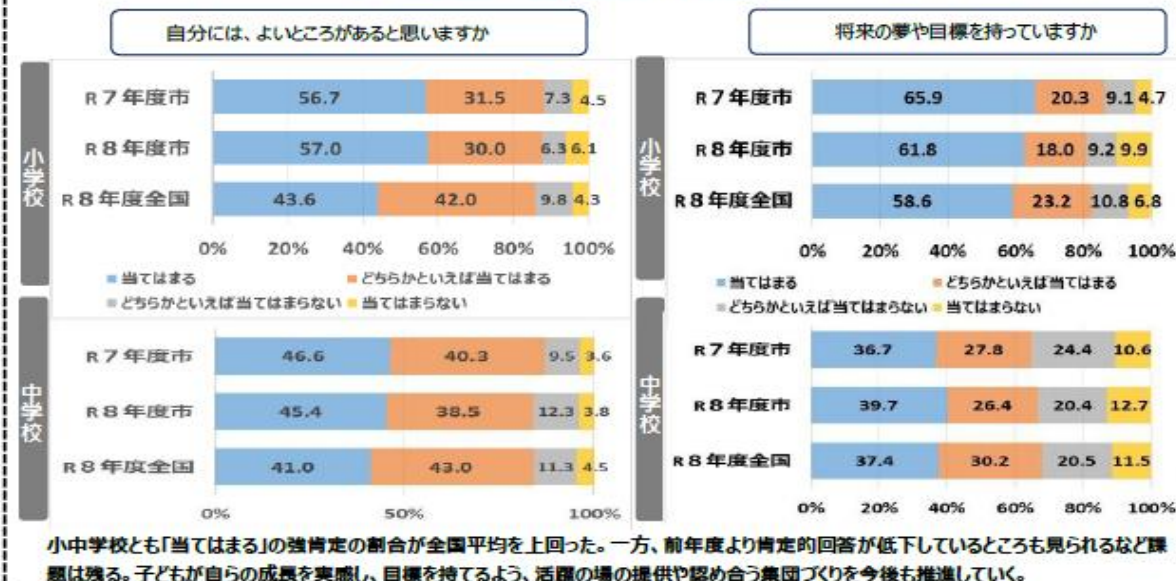
IRTとは、テストの結果を「受験者」と「問題の難しさ」に分けて分析する方法です。これによって、違う問題を使ったテストでも、また違う集団の結果でも、できるだけ公平に学力を比べられるようになります。

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果概要 大阪狭山市教育委員会

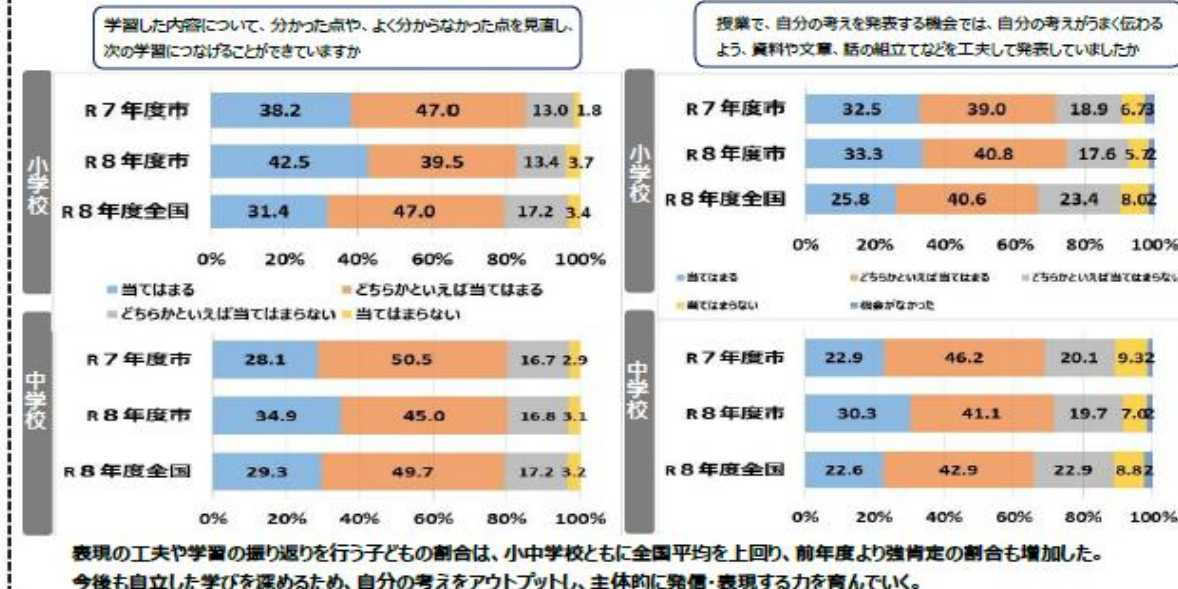


質問調査結果

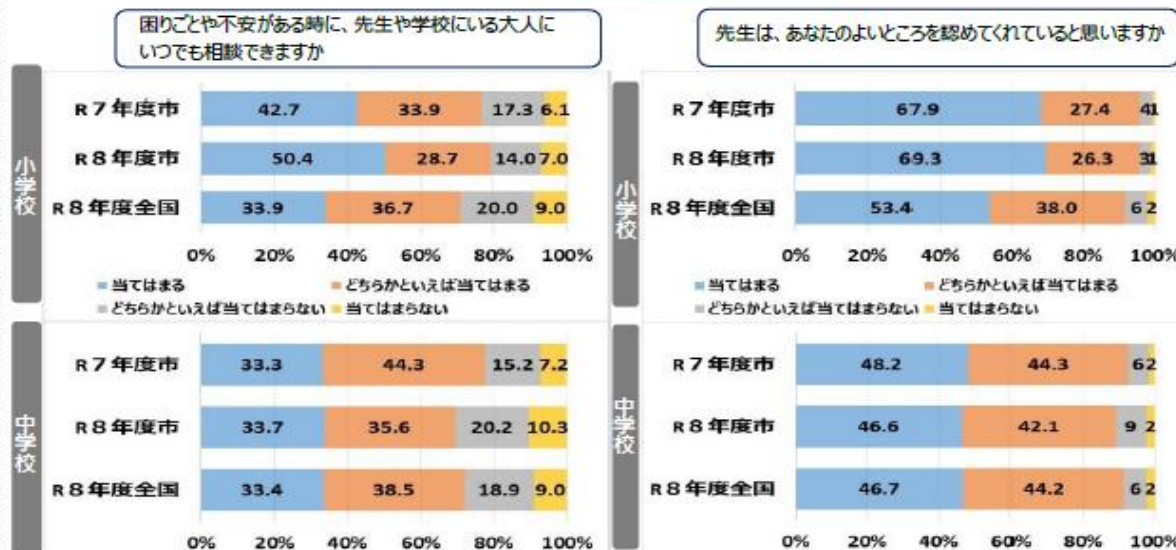
学びに向かう子どもたちの自己肯定感



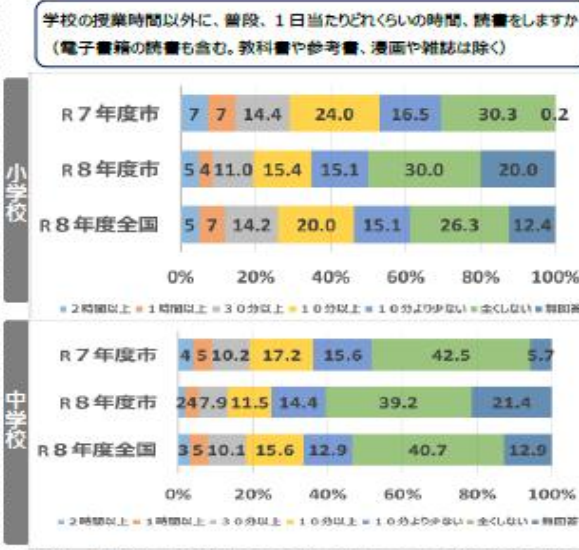
学びに向かう力（知識・技能、思考力・判断力・表現力とともに子どもたちに育むべき力）



子どもと教職員との関わり



読書活動の充実



グローバル人材育成に向けての一層の充実

